

ごあいさつ

われわれ人類が地球上の様々な場所で直面している地球環境問題は、この21世紀において解決すべき最大の課題であります。しかし、どのような問題がどのようにあり、どのように解決してゆくか、それを考えることは容易ではなく、包括的な視点で自然や社会にアプローチしなければなりません。このアプローチはまさに生態学が持つ自然に対するまなざしの向け方そのものです。そのため、生態学の社会的な役割は近年ますます大きなものとなってきています。

京都大学生態学研究センターは、さまざまな地球環境問題の解決に少しでも貢献するため、さまざまな生態系において、動物・植物・微生物など多様な生物を対象として、分子生物学・安定同位体・理論生態といった多様な解析手法を駆使する研究者が一堂に会し、生物多様性や生態系の機能の解明、そして生態系の保全に関する理論を構築することを目的として、生態学の国内外での研究を推進しています。



京都大学
生態学研究センター長 木庭 啓介

沿革

- 1914年（大正3年）9月25日
京都帝国大学医科大学附属臨湖実験所創立
- 1922年（大正11年）4月1日
京都帝国大学理学部附属大津臨湖実験所となる
- 1964年（昭和39年）4月1日
京都大学理学部附属植物生態研究施設設置
- 1991年（平成3年）4月12日
上記2施設を母体として生態学研究センターを設立
- 1998年（平成10年）8月1日
滋賀県大津市上田上平野町に新実験棟を竣工
- 2001年（平成13年）4月1日
第二期生態学研究センター設立
- 2004年（平成16年）4月1日
国立大学法人化に伴い、国立大学法人京大生態学研究センターとなる
- 2010年（平成22年）4月1日
生態学・生物多様性科学の共同利用・共同研究拠点（～2016年3月31日）
- 2016年（平成28年）4月1日
生態学・生物多様性科学の共同利用・共同研究拠点（再認定）（～2022年3月31日）
- 2022年（令和4年）4月1日
生態学・生物多様性科学の共同利用・共同研究拠点（再認定）（～2028年3月31日）

生態学・生物多様性科学の 共同利用・共同研究拠点として

生態学に関する共同研究を推進する全国共同利用施設として機能しており、毎年度共同研究と研究会・ワークショップを公募しています。



生物多様性・生態系研究基金 一ご寄付のお願い一

研究者ネットワークと研究設備を強化して、西太平洋・アジア地域の生物多様性・生態系研究を牽引するとともに、生態学研究を担う人材育成のために役立てていきます。



■JR 京都駅から（大津・米原方面行き）

- ・「普通」「快速」列車（17分）⇒「瀬田」駅
- ・「新快速」列車（17分）⇒「南草津」駅

●瀬田駅から（帝産バス301系統）

- ・「大学病院」行き（15分）⇒「大学病院」徒歩15分

●南草津駅から（近江鉄道バス南草津飛鳥線）

- ・「松ヶ丘5丁目」行き（20分）⇒「松ヶ丘5丁目」徒歩10分
- ・「県立長寿社会福祉センター」行き（20分）⇒「生態学研究センター」



京都大学 生態学研究センター

〒520-2113 滋賀県大津市平野2丁目509-3
TEL：077-549-8200（代表）／FAX：077-549-8201
<https://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/>

犬山キャンパスの情報については、
「京都大学ヒト行動進化研究センター」のHPをご覧ください。
<https://www.ehub-kyoto-u.com/>

© 2025 Center for Ecological Research, Kyoto University.

京都大学
生態学研究センター



京都大学
生態学研究センター



Center for Ecological Research



